

皆様おはようございます。アドベントの第二週となりました。いよいよ12月に入りました。再来週にはクリスマスの礼拝の時を迎えます。

昼はどんどん短くなりますが、クリスマスの頃を境に日は長くなっていきます。まだまだ寒さはこれからが本番ですが、私たちはへ神様の希望の光を照らして頂き、クリスマスを待ち望み、クリスマスを喜び、そして勇気をいただいて厳しい季節を進んでいくことができることを感謝いたします。

先週はザカリアのお話でした。彼は天使の出現の中、恐怖の念に襲われました。そして洗礼者ヨハネの誕生の預言を聞いても頭の上を素通りして、何によって私はそれを知ることができるのでしょうか、どうやっても私は理解できないと、自分の頭で判断して応答してしまいました。

今日はマリアへの受胎告知の箇所ですけれども、彼女はどのように天使に答えたのでしょうか。

26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。

6ヶ月目とあります。それはエリザベトの懐胎から6か月目という意味です。天使ガブリエルはなぜ田舎ガリラヤの小さな寒村ナザレに遣わされたのでしょうか。ザカリアは祭司で、エルサレムの神殿の聖所で天使を迎えましたが、マリアはガリラヤの小さな小さな村の年若い少女でした。この対比がユニークです。

27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

ヨセフと言う人の許婚のマリア。ヨセフの許婚のマリア。マリアと言う名前が先に出てくることはありません。封建的な制度といますか、マリアはヨセフの許婚でした。マリアの名がヨセフの名に先立って現わされることはありません。しかし、天使はヨセフを飛び越えて、まずは直接マリアに現れました。28 天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

1:29 マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。

ザカリアは天使の出現の時に直ちに不安に思い恐怖に襲われたとありますが、マリアは、天使が現れたそのことだけでは、恐怖に駆られたり惑いませんでした。29 節にありますように、マリアはこの言葉に戸惑ったのです。それは天使の出現をいたずらに恐れて戸惑い、深く困惑したということではなくて、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んでいたということです。

この挨拶はどういう意味なのかと考えた上で戸惑った困惑した深く思い悩んだということは、天使の語るこの意味を知りたいと言う中で戸惑い、困惑し、考え込んだということです。

私たちもまた、「おめでとう恵まれた方私があなたと共におられる」とのこの言葉を客観的に私たちも聞いたら、唯々うれしいと喜ぶばかりで、唯々喜ばしい言葉のように思われます。しかし、マリアは、唯々うれしいというだけではなくて、天使が突然現れて名もない自分自身に語られたこのこと、自分に語られたこの言葉は祝福のこの言葉は一体どういう種類のものであって、どういうことに結実するのか、そして何を意味しているのかを、つくづく考えました。深く深くその恵みの真実を知り極めようとするマリアの信仰の気持ちがここにはあります。

なんとなく祝福が私に訪れる予感を喜ぶと言うのではなくて、それで満足せず、それが一体どのような祝福なのか、主が共におられ、この私におられ、恵んでくださるといのは、一体何を意味するのか、主のなさろうとしていることを誠実に知りたいという応答の心が彼女にはみられるのです。

30 すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。

28節の、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」に続いて、また「恵み」という言葉があります。恵みという言葉の意味ですが、これは人が何かをしたから与えられる報酬ではなく、何も受けるべきことをしていないのに与えられることを恵みといいます。

恐れなくていい、考えこまなくていい、ただ委ねよ。神からの恵みを、一方的な恵みをいただいているのだから委ねなさい。

31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

1:32 その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。

1:33 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

ザカリアにも同じように、わが子がどんなに偉大なものになるかが語られましたが、彼は自分がどうやってそのことを分かることかさせて分かるのか、自分がどうやってそれを理解してかみ砕くことができるのかということではいっばいいいばいで、わが子への預言は頭を素通りしているようでした。

そして祭司ザカリアはエルサレムの神殿で、どうしてそんなこと私ができるって言うんですかと跳ね返しましたが、ガリラヤのナザレの少女マリアは突飛もない、神様の突然の介入であるにもかかわらず、心を広げて一体私は何によっ

て神様から恵まれるのかという事に心を集中して耳を傾けていました。そして語ったのが34節です。

34 マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」

これは一見するとザカリアと同じような拒絶のこの言葉のようにも思われます。「私は男の人を知りませんので、そのような事はあり得ません」。

しかしこの言葉はそうではありません。マリアの言葉は、「男の人を知らない私に対してどのようにしたらそれはなるとおっしゃるんですか」信じたいけれど信じられない、そういう叫びでした。ザカリアは最初からそんな事は起こらない。妻も私も高齢だから。私は理解できないと、起こらないことを前提にして語りましたが、マリアは起こって欲しい、でもどうやってそれが起こるんですかと、起こることを前提にしてマリアは考えていました。

起こるはずはない、そんなことを分かるわけがないとはねのける言葉ではなくて、これこれこういう者なんです、状況なのですが、どうしたらそんな私にそれが起こり得ると言うのですか、それがあり得ましようか起こりえましようか、どうやったらそれが可能になるんでしょうかという、前向きで積極的で、主に期待する、将来を期待するマリアの信仰にあって若々しい、瑞々しい、素直で子供らしい気持ちがここに表されています。私たちも、そういう気持ちでい続けたいと思います。見ずとも、分からずとも、筋道が見えなくても、起こらないとは決めつけずに、どのようにそれは起こるのかと、目を見開きたいと願うのです。

35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。

1:36 あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。

1:37 神にできないことは何一つない。」

聖霊が降り、いと高き方、至高者の方の力が私たちを包むのです！

それは何と言う祝福でしょうか。おめでとう恵まれた方。主があなたと共におられますという言葉に畏れを抱きます。聖霊が降り、いと高き方の力が私たちを包むという言葉に畏れを抱きます。

「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。」「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。」

恐れるな。あなたは神から恵みを頂いた。聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。神にできない事は何一つない。そのような守りの中に私たちも導かれています。守られています。私たちは神様に恵まれる者として覚え

られています。それは突飛もない、突拍子もないことかもしれません。けれども神様それはどうやったら起こり得るんですか、私はあなたを信じます。私はそれを知ること理解することができなくても、困ってしまう事でも、あなたにお従いいたします。あなたがおめでとう恵まれた方とおっしゃってくださるのなら、私には理解できなくても、困惑の材料であっても、私はそれでも期待します。訳が分かりませんが、許婚がいながら身ごもるということがどうということになるのか波乱含みで、突拍子もない出来事ですけれども、聖霊が降り、いと高き方の力が私を包むのならば、そして素晴らしい子供が生まれて世のため人のためになるのであれば、私は自らあなたの前におささげします。私はしゅのはしためです、しもべ、奴隷に過ぎません。お言葉通り、この身になりますように。

親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。

1:37 神にできないことは何一つない。」、何一つないよと神様は励ましてくださいます。

神様のこの励ましにもかかわらず、主のお導きが時に私たちの心を引き裂く、困惑となることもあるかもしれません。お願いですから平穏な人生を送らせてください。おめでとうとも恵まれた方とも言われなくてもいいから、いと高き方の力が包んで私が考えもつかない所へ連れて行かれることには恐怖を覚えます。何によってそういうことが分かりましょうか理解しがたいです。辛いです。しかし聖霊に委ね、いと高き方の力に委ね、恐れずに、「おめでとう、恵まれた方、主が共にいて下さる」ということを信じきって、先のことが何もわからなくても、神にできない事は何一つないとの御言葉を信じ、あなたの御言葉が我が身になりますように告白したいのです。

私はあなたのご意思にお従いします。このように信じきって従順に子供のようになり、ひたすら神様に向きつづけ、そして神様のお言葉を受け入れ神様の御心になるように常に願う人はなんと幸いなことでしょう。

私たちの生涯の中にも、この共におられる方がいらっしやって、時に突飛子もない展開になることがあり、身の危機が訪れることがあるかもしれません。しかし、「恐れる事はない、おめでとう、恵まれた方」というそのお言葉を胸に、今週も進んでまいりましょう。

聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包んでいます。神にできない事は何一つありません。主のお言葉は、創世記の出来事のように出来事に変わります。そう信じて今週も進ませてくださいたいと願います。